

圖說俳句大歲時記 夏



圖說俳句大歲時記

夏

角川書店版



図説 俳句大歳時記〈全五巻〉夏

昭和39年8月20日 初版発行

定価 4800 円

編 者 角 川 書 店

発 行 者 角 川 源 義

写真製版所 株式会社 高木写真製版所

本文印刷所 中 光 印 刷 株 式 会 社

製 本 所 株式会社 鈴 木 製 本 所

発行所 株式会社 ^{かど} ^{かわ} ^{しよ} ^{てん}
角 川 書 店

東京都千代田区富士見町2の7
電話九段(261)0111(代表)
振替口座東京195208番

© 1964 Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします



ヒクイナ



ヨタカ



アカハラ



ビンズイ



サンコウチョウ



浅間高原落葉松新緑



蓼科高原の夏



鳴鳥の種類と聞き場所

鳴鳥の種類

科名	鳥名
八色鳥科	ヤイロチヨウ
雲雀科	ヒバリ
燕科	ツバメ・コシアカツバメ・イワツバメ
鶺鴒科	ハシブトガラス・ハシボソガラス・カササギ・オナガ・ホシガラス・カケス
四十雀科	シジュウカラ・ヤマガラ・コガラ・ヒガラ・エナガ
五十雀科	ゴジュウカラ
山椒喰科	サンショウウクイ
鶇科	ヒヨドリ
河鳥科	カワガラス
ミソサザイ科	ミソサザイ
鶇科	トラツグミ・マミジロ・クロツグミ・アカハラ・イソヒヨドリ・ノビタキ・ルリビタキ・コマドリ・アカヒゲ・コルリ
鶇科	キクイタダキ・エゾムシクイ・メボソ・センダイムシクイ・ウグイス・ヤブサメ・オオセツカ・オオヨシキリ・コヨシキリ・セツカ・サンコウチヨウ・コサメビタキ・サメビタキ・キビタキ・オオルリ
鶇科	イワヒバリ
鶇科	ビンズイ・セグロセキレイ・キセキレイ
鶇科	モズ・チゴモズ・アカモズ
棕鳥科	ムクドリ・コムクドリ
眼白科	メジロ
金腹科	スズメ・ニュウナイスズメ
アトリ科	イカル・カワラヒワ・ウソ・ノジコ・ホオジロ・ホオアカ・コジュリン

歳時記の夏の季に含まれる立春から立夏に至る三カ月は、まさに鳥の歌の聞き時である。鳥の歌は繁殖期における雄鳥の囀り（タマ

燕雀目（冬鳥・稀種・迷鳥を除く）

シギは例外であって、秋冬季は地鳴きとなってしまう。その歌も、いわゆる鳴禽類といわれる燕雀目の鳥が主なので科名と鳥名を挙げると別表の通りである。燕雀目中の冬鳥は、繁殖地のシベリア地方では囀っているが、日本では秋冬季の滞留なので囀らない。別表のほか、啄木鳥科、仏法僧科、翡翠科、ヨタカ科、フクロウ科、杜鵑科、ハト科、鶯鷹科、鶇科、千鳥科の諸鳥の鳴き声があるが、囀鳴は一部の鳥にしかない。

鳴き声の聞き場所

鳥の声の聞き場所は、その繁殖分布に従って、低地帯・低山帯・亜高山帯・高山帯に大別される。その個々について略述する。

低地帯

〔海岸・河原〕トビ・イソヒヨドリ・セグロセキレイ・イソシギ・カワセミ・セツカなど。〔湖沼・水田〕カイツブリ・カルガモ・オオヨシキリ・ヒクイナ・バン・タマシギなど。〔村落・耕地〕キジバト・シジュウカラ・ムクドリ・カワラヒワ・ホオジロ・ツバメ・ヒバリ・コジュケイなど。〔樹林〕アオバズク・オナガ・キジバトなど。〔山麓地帯〕ヒヨドリ・コサメビタキ・メジロ・サンショウウクイ・キジバト・シジュウカラ・モズなど。

低山帯

〔溪谷一帯〕カワガラス・ミソサザイ・ヤマセミ・アカシヨウビン・ヤブサメ・オオルリなど。〔草原地帯〕ノビタキ・ホオアカ・コヨシキリ・セツカ・オオシギ・ウズラ・キジ。〔広葉樹帯・針広混交林〕コルリ・サンコウチヨウ・コサメビタキ・キビタキ・トラツグミ・マミジロ・クロツグミ・アカハラ・センダイムシクイ・ゴジュウカラ・シジュウカラ・ヤマガラ・ヒガラ・コガラ・エナガ・カケス・ノジコ・イカル・ミソゴイ・アオバト・キジバト・カッコウ・ホトトギス・ツツドリ・ジュウイチ・ブッポウソウ・コノハズク・フクロウ・アカゲラ・アオゲラ・コゲラ・ヤマドリ（ホロウチ）・鷹類など。〔灌木叢林地帯〕ウグイス・モズ・アカモズ・チゴモズ・ホオジロ・アオジ・ノジコ・ヨタカ・アカハラなど。〔崖地〕チョウゲンボウなど、約六十種ほどである。メボソ・エゾムシクイ・ルリビタキ・コマドリ・サメビタキ・キクイタダキ・キバシリ・ウソ・ホシガラス・カヤクグリなど。また低山帯のヒガラ・キビタキ・コガラ・ジ

ユウイチなども亜高山帯下部に普通である。

高山帯

高山帯下部には亜高山帯の大部分が見られるが、特に高山のものとしてはイワヒバリ・ライチョウ・イヌワシのほか、イワツバメ・アマツバメが繁殖し、なお垂直分布の大きいキセキレイやウグイスが亜高山帯から時に高山に及び、またビンズイは低山帯から高山へかけての礫地にいる。

以上、大体の標準だが、特に富士山、北アルプス、南アルプス、中央アルプス、奥日光一帯、浅間山麓などは第一流の繁殖地であり、これに次いで八ヶ岳、北八ヶ岳一帯、大菩薩嶺、三ツ峠山、加賀白山、尾瀬、丹沢山、雲取山から奥秩父、木曾地方、関西の大台ヶ原、山陰の伯耆大山などが知られ、また信州、上州、野州、甲州一帯にはすぐれた繁殖地が多い。さらに四月五月、八月九月の海岸線はシギ類、チドリ類の旅鳥の通過期で、水辺独特の鳴き声がきけるが、初心者には声による鳥類の識別は困難で、専門家の指導にまたねばならない。

鳥は昼間でも鳴くが、盛んに鳴くのは夜明けの午前三時半ごろから同七時ごろまでで、漸次鳴き声はまばらになり、午前九時ごろから同十時まで。午後三時ごろから同四時ごろまではあまり鳴かず、日暮れ時にまたいささか鳴く。各地の探鳥会が、朝食前の早曉に行なわれるのはこのためであるが、大樹の繁りの深い森林や暗い谷あいでは日中でも比較的鳴き声がきかれる。またオオルリ・ヤブサメ・センダイムシクイ・サンショウウクイのように四月中旬に渡来する夏鳥、さらに早く、二月に囀り出すカワガラスや、三月に囀鳴を始めるヒバリ・ミソサザイ・カワラヒワ、冬の間から囀るイカルや暖地のホオジロなどの留鳥ないし漂鳥は、早春から鳴き声をきける。

夏の鳥は四月中旬から渡来するオオヨシキリの五月早々を始めとし、以下五月上旬のジュウイチ・ヨタカ、五月中旬のカッコウ・ホトトギスなど、渡来の遅い種類が出そろうのは、五月半ばで、以後六月から七月はじめまでが諸鳥の声の聞き時である。ただし亜高山帯、高山帯では七月中を通じて、八月初旬までよく囀っている。要するにわが国で繁殖する留鳥、漂鳥、夏鳥の三種の声をきくわけである。

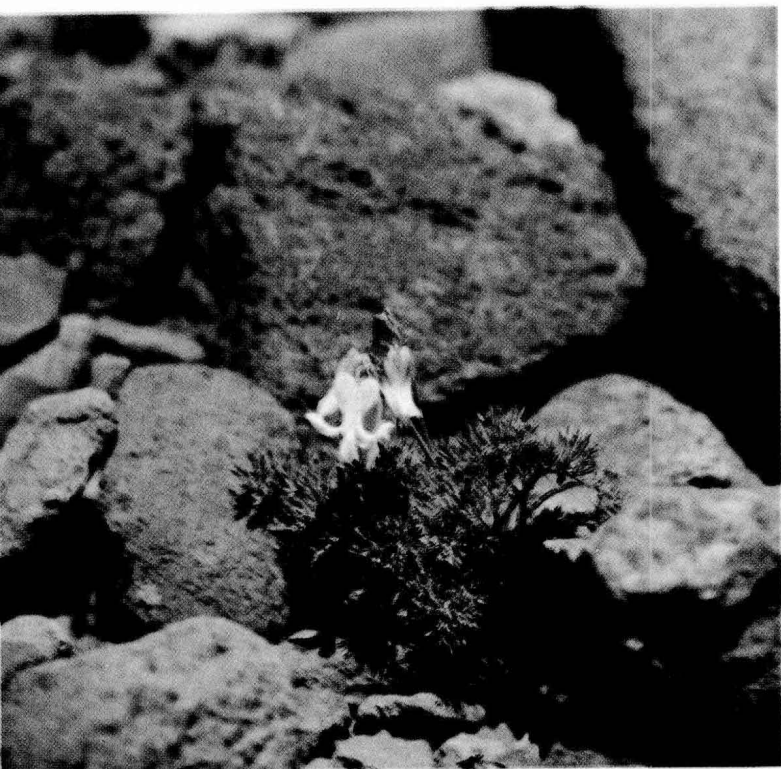


当麻寺の練行儀（芳賀日出男）



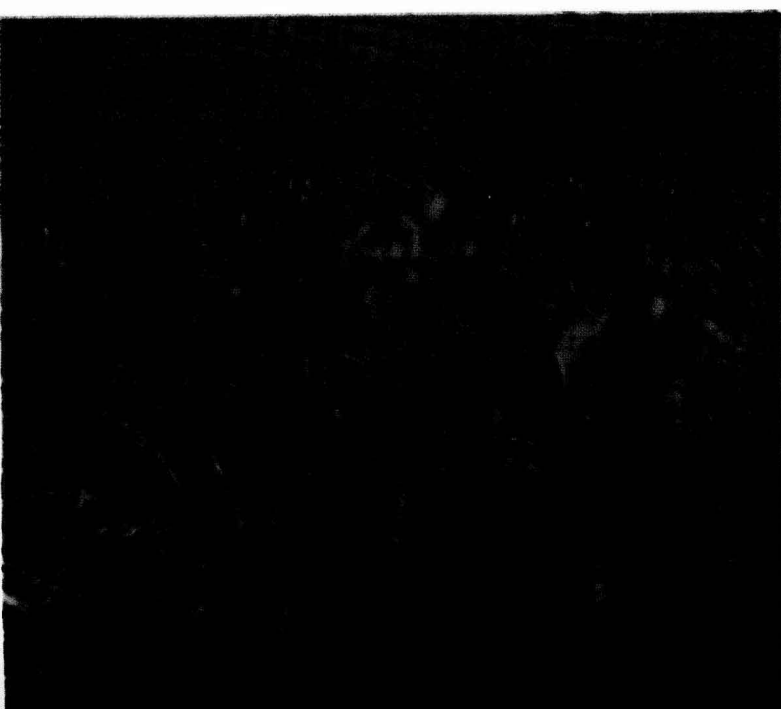
ミヤマオダマキ

キンポウゲ



タカネウスユキソウ

コマクサ



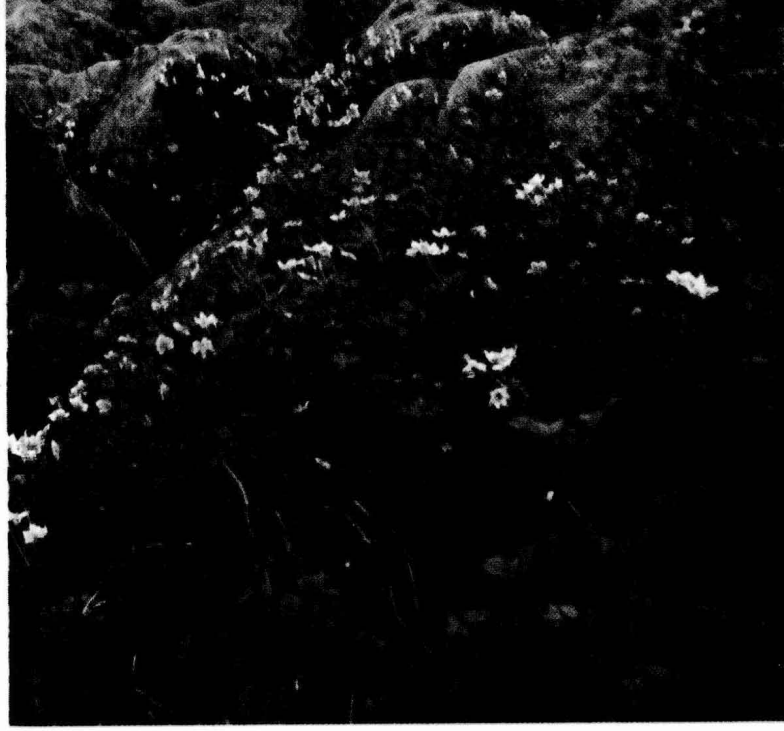
ウルップソウ

ヒオウギアヤメ





ハクサンイチゲ



クロユリ



キヌガサソウ



ウメバチソウ



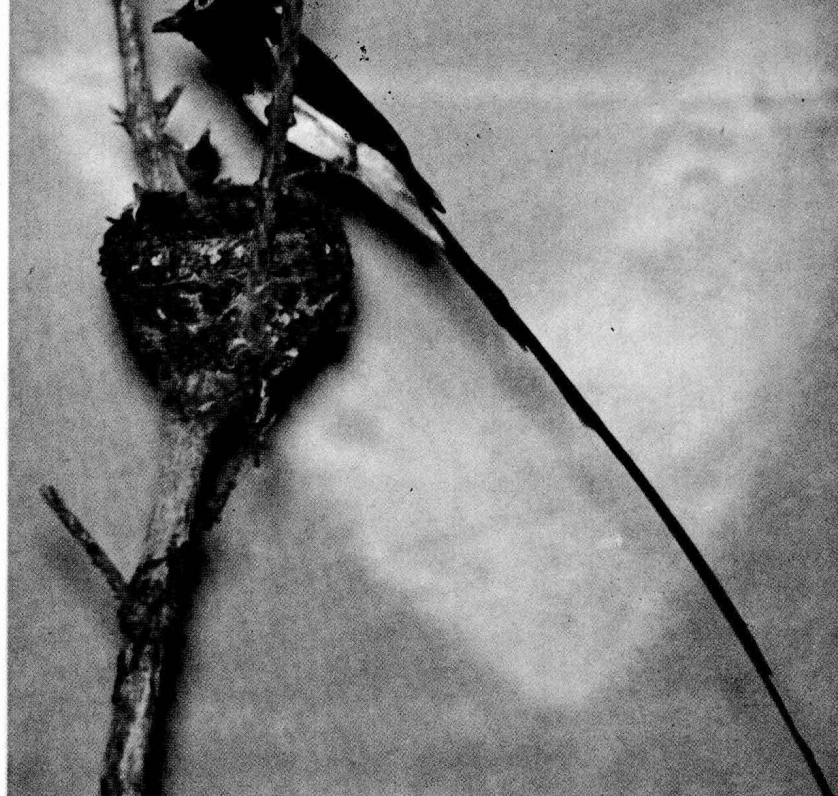
ウサギギク



クルマユリ



ヒクイナ



サンコウチョウ

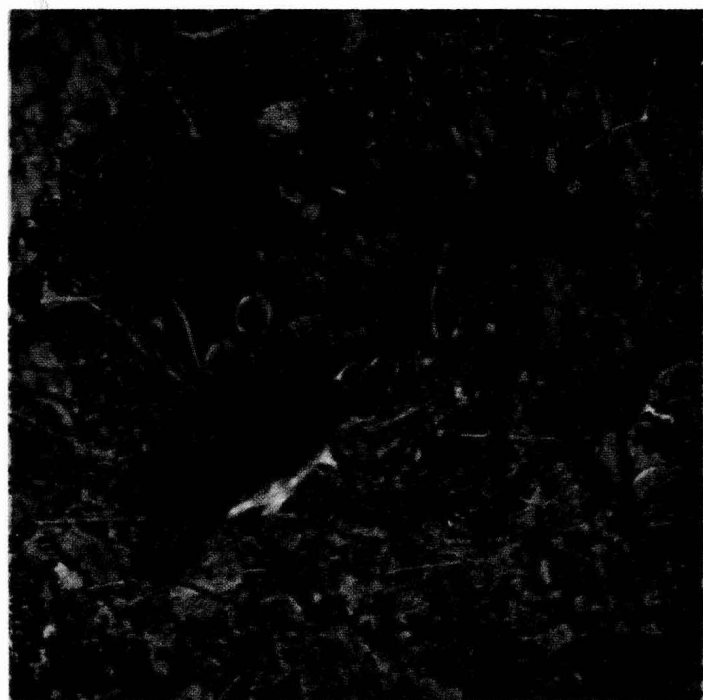


コアジサシ

カワセミ



バ ン



コルリ



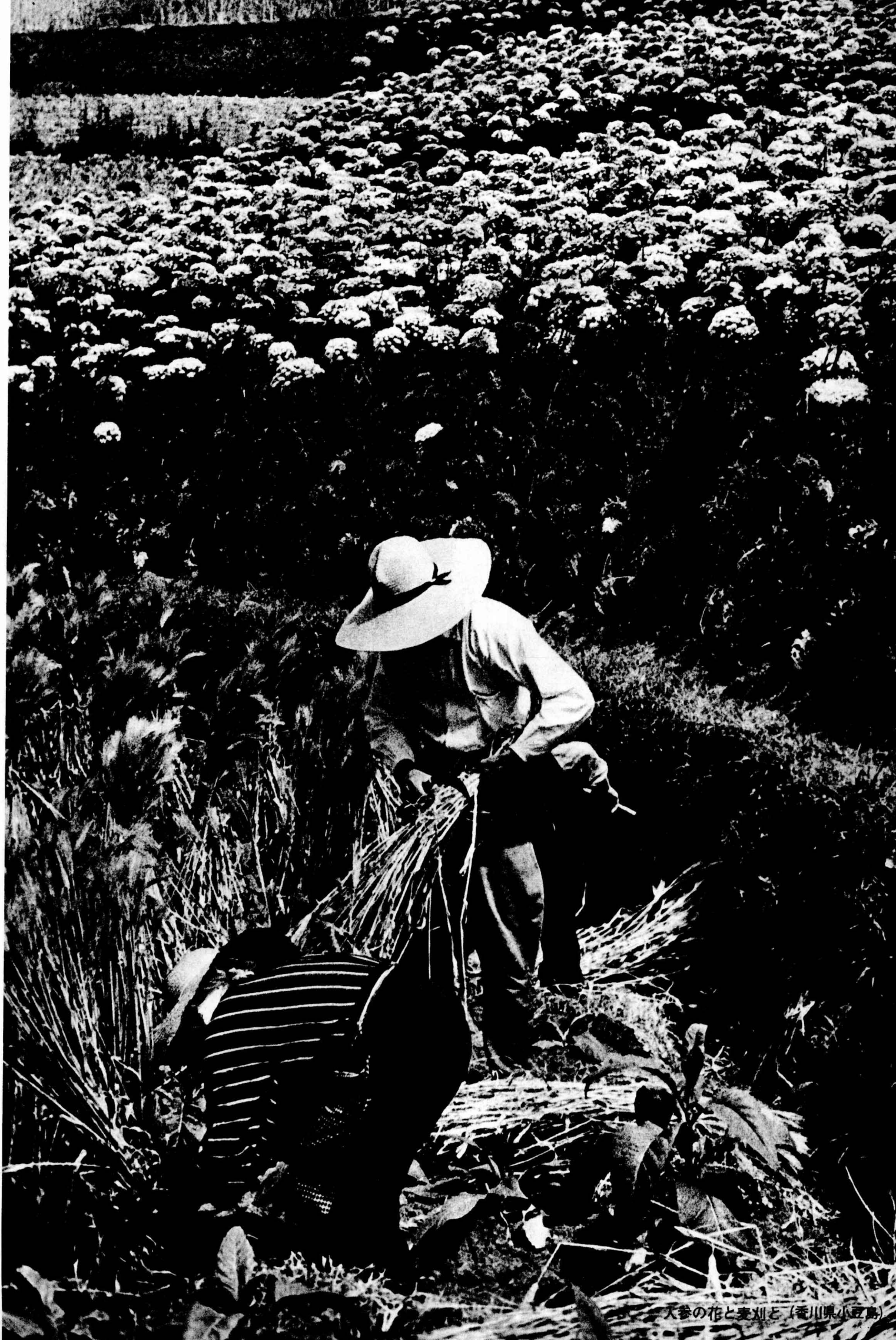
白樺新樹（長野県上高地）



お田植の笠 (広島県壬生)

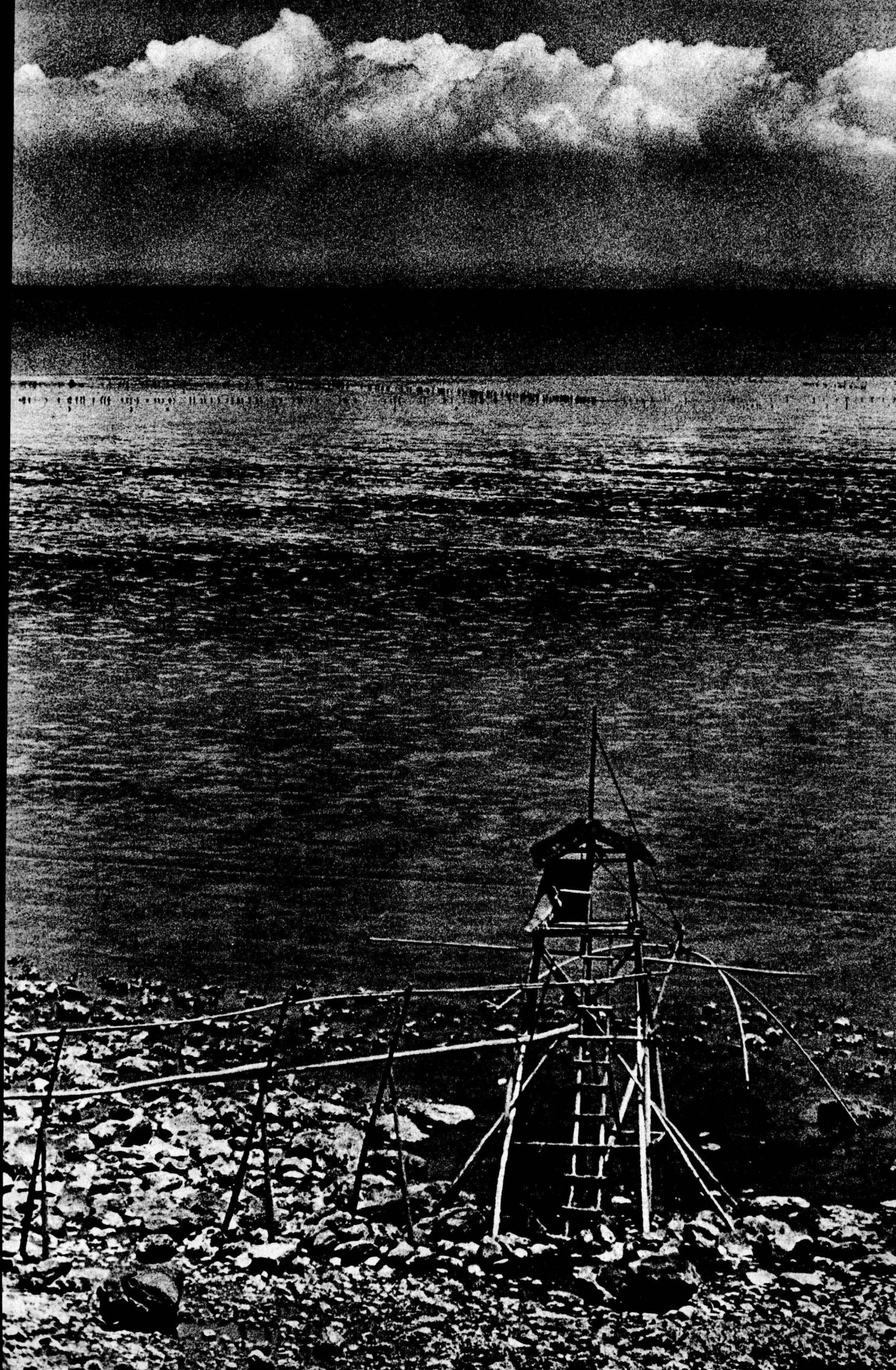
水郷のあやめ（茨城県潮来）







長雨の紫陽花（山口県長府）



干潟の夏雲 熊本県有明海岸



夏の岩肌（長野県槍ヶ岳）



山路の虫送り (埼玉県皆野)